

教育改革：歴史はくりかえす、されど・・・

石田 貴文 (生物科学専攻 教授)



「東京大学の秋入学・・・」が世間を騒がせ、そして騒がせただけで終わった。と言って良い今日この頃である。大学を良くしよう、より良い教育・研究環境を実現しよう、という心はいつの時代にも綿々と紡がれている。現「理学部ニュース」は、あの大学紛争(1960年代)の後に理学部内の教官・学生・職員のあいだの風通しを良くするために「理学部広報」と銘打って発刊された。1969年11月、理学部広報第1巻13号に「大学院の現在と将来(東大理学系大学院の立場

から)」と言う記事が、4ページに亘り、理念、制度、組織、教育・研究、院生の生活、教官に関して掲載されている(理学系研究科のホームページからバックナンバーが読める <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/story/newsletter/>)。さすが「理学部」と思わないだろうか?問題を伶俐にとらえ、衒い無く a(建前)~e(当面の方策)にまとめあげている(図参照)。しかも全4ページでカタカナ用語が使われるのは10回のみである。これを先日配布され、皆さんの手元にあるであろう学内広報 no.1443 特別号「ワールドクラスの大学教育の実現のために 学部教育の総合的改革」と見くらべて欲しい。2013年の学

内広報ではどうしてこんなにカタカナを使うのだろうか?アクションリスト?ナンバリング制?グローバル化?ちなみに、私のパソコンで文字変換すると「愚弄張るか」になる。この記事を書いていると、昔の映画「会議は踊る」の主題歌 'Das gibt's nur einmal...' が聞こえてくる。それは、「ただ一度」。でも「歴史はくりかえす、されど・・・」

大学院の現在と将来
(東大理学系大学院の立場から)

この資料は理学系研究科教員長(図説資料)として第4号の題名をまとめたものである(昭和49年10月発行)

A. 理念の明確	B. 課程の改善	C. 院舎の充実	D. 改革の方策	E. 院生の生活
1. 学部教育との関係 2. M.C. による 3. D.C. による 4. 院生生活	1. 学部教育との関係 2. M.C. による 3. D.C. による 4. 院生生活	1. 院舎の充実 2. M.C. による 3. D.C. による 4. 院生生活	1. 学部教育との関係 2. M.C. による 3. D.C. による 4. 院生生活	1. 院生の生活 2. M.C. による 3. D.C. による 4. 院生生活

■ 半世紀近く前の「大学院改革」に向けた資料

東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

() は原著が英文 (和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
2013年9月17日付学位授与者(2名)			
課程	生化	青木 真理	マウス嗅細胞の背腹軸に沿った投射に於ける Robo1 陽性グリア細胞の役割
課程	生化	秋元 勇輝	細胞運命決定機構多入力多出力経路における backward elimination PLS regression 法を用いた解析 ()
2013年9月27日付学位授与者(10名)			
課程	物理	巫 浩	生体膜に対するグラフト高分子の効果 ()
課程	物理	張 弘	Selberg 積分とゲージ/戸田双対性 ()
課程	天文	小山 翔子	ミリ波 VLBI 観測によるレーザー Mrk 501 の電波コアの高精度位置決定 ()
課程	天文	野田 博文	X 線衛星「すざく」による活動銀河核セントラルエンジンの研究 ()
課程	天文	守屋 堯	星周物質と相互作用する超新星 ()
課程	地惑	平野 史朗	媒質境界に沿う、および媒質境界と交わる断層の動的破壊に関する理論的解析
課程	化学	大和田成起	チタンサファイアレーザーの高次高調波によってシードされた極端紫外領域自由電子レーザーによる原子の多光子イオン化およびレーザー誘起フィラメントによる後方蛍光の増幅 ()
課程	生科	井手 隆広	外腕ダイニンのクラミドモナス軸系微小管上への構築に必要な蛋白質間相互作用の研究 ()
課程	生科	久永 哲也	ATM 依存的 DNA 損傷応答経路が植物の発生に果たす役割の解明 ()
課程	生科	黄 慶輝	爬虫類における免疫プロテアソームサブユニット <i>PSMB8</i> 遺伝子の二型性の進化 ()

人事異動報告

異動年月日	所属	職名	氏名	異動事項	備考
2013.9.30	生化	教授	伊藤 隆司	辞職	九州大学大学院医学研究院・教授へ
2013.9.30	生化	特任准教授	久保田浩行	辞職	
2013.9.30	化学	助教	菅野 憲	辞職	富山大学・助教へ
2013.9.30	地惑	特任助教	亀田 純	辞職	
2013.9.30	地惑	特任助教	松井 仁志	辞職	
2013.9.30	化学	特任助教	岩崎 純史	辞職	准教授へ
2013.10.1	ビッグバン	客員教授	BERNARDEAU FRANCIS	採用	
2013.10.1	物理	准教授	福嶋 健二	採用	
2013.10.1	強光子場	准教授	岩崎 純史	採用	特任助教から
2013.10.10	ビッグバン	客員教授	STAROBINSKIY ALEXEY ALEXANDROVICH	採用	
2013.10.15	化学	特任助教	草本 哲郎	辞職	助教へ
2013.10.15	臨海	特任助教	伊勢 優史	任期満了退職	
2013.10.16	化学	助教	草本 哲郎	採用	特任助教から
2013.10.16	臨海	特任助教	大森 紹仁	採用	
2013.10.31	ビッグバン	客員教授	BERNARDEAU FRANCIS	任期満了退職	
2013.10.31	生化	准教授	有田 正規	辞職	国立遺伝学研究所・教授へ

あとがき

2013年11月号を、お届けします。理学部1号館の第3期工事が決まったことから、本号では横山(央)編集委員長の発案で、旧1号館の特集記事を組み、たまたま編集担当の番だった牧島が、編集委員会の中で旧1号館にもっとも縁のある者として、その取りまとめも拝命しま

した。いささかマニアックな編集になってしまったかもしれませんが、ご容赦ください。編集子としては、小柴名誉教授のノーベル物理学賞受賞を扱った2002年11月号や、東日本大震災の放射能に関する特集を組んだ2011年5月号とともに、たいへん記憶に残る号となりました。

た。旧1号館の残存部分の取り壊しは、間もなく始まる予定です。本郷キャンパスに居られる方やお近くの方は、ほぼ一世紀にわたり理学部の歴史の重要な一部を支えてきた建物の姿が消える前に、ぜひ今一度、実物をご覧ください。牧島 一夫(物理学専攻 教授)

東京大学理学系研究科・理学部ニュース 第45巻4号 ISSN 2187・3070

発行日：2013年11月20日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113・0033 東京都文京区本郷7・3・1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会

rigaku-news@adm.s.u-tokyo.ac.jp

横山 央明(地球惑星科学専攻, 編集委員長)

石田 貴文(生物科学専攻)

對比地孝亘(地球惑星科学専攻)

福村 知昭(化学専攻)

牧島 一夫(物理学専攻)

横山 広美(広報室)

國定 聡子(総務チーム)

宇根 真(情報システムチーム)

武田加奈子(広報室)

印刷：三鈴印刷株式会社

本ニュースはインターネットでもご覧になれます。

東京大学 理学部ニュース

検索

